

第2部 網走市の概況

第1章 自然的条件

第1節 位置及び面積

網走市は、オホーツク総合振興局管内東部に位置し、オホーツク海に面している。

市街地は、網走川河口付近とその南に続く海岸段丘上の平地に広がり、北西部に能取湖、中部に網走湖、東部に濤沸湖がある。

内陸部は、森や農村地帯が広がる緑豊かなまちで、網走国定公園の一部となっている。

市域は東端、東経144度26分～144度1分、北緯44度6分～43度46分にあり、東西32.8km、南北20.7km、面積471.0km²である。

・ 網走市位置



第2節 地形・地質

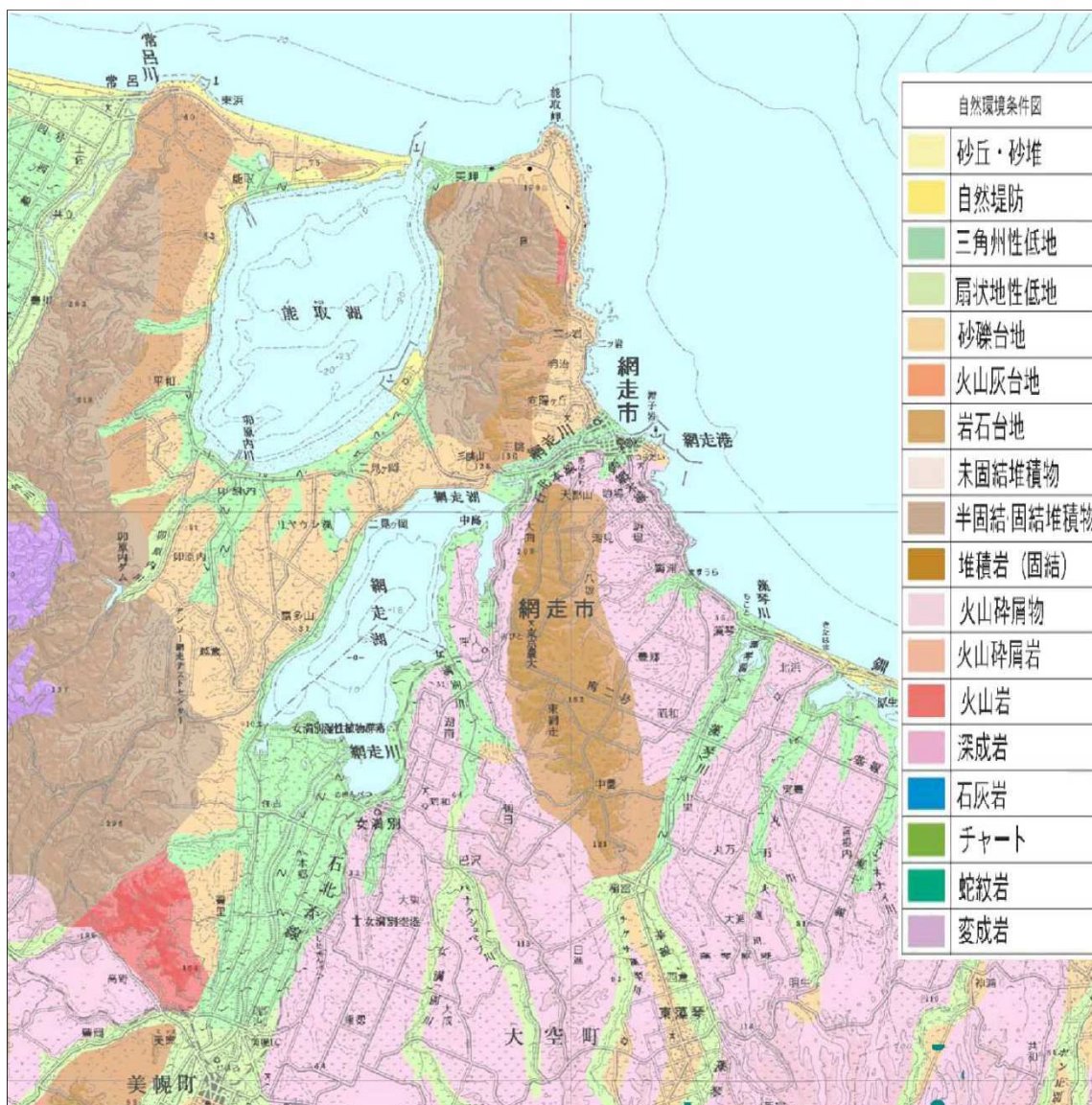
地勢は、一級河川網走川右岸の一部にある沖積土地帯を除きほとんど泥炭地で構成される平野で、市街の西部にある網走湖に南から網走川が流れ込み、女満別川等を集めて北東部から再び網走川としてオホーツク海に流れている。

網走湖は網走川で、濤沸湖は北浜地区で海とつながっているため汽水湖となっている。

また、濤沸湖の西10km余りのところには藻琴湖があり、周辺は三角州性低地を形成している。このほか、市の北西部には、オホーツク海に通じる海跡湖である能取湖があり、周辺は砂礫台地と岩石台地に囲まれている。

また、市街地南部には、岩石台地が形成されている。

■網走市自然環境現況図



第3節 気候

本市の気候は一年を通じて晴天が多く、年間降水量・降雪量は少ない。海に面するため寒暖差も少なく、北海道としては比較的温暖な気候である。

平成3年～令和2年（1991年～2020年）の平年値では、年平均6.9℃、年平均降水量は844.2mmである。

[資料2-1]市の気象概況

第2章 災害の概況

本市の自然災害及び事故災害の概況は、次のとおりである。

第1節 四季別の災害の概況

本市の災害の発生は暴風雨（低気圧・台風）による風水害が最も多く、以下火災、冷害、雪害等がその主なものである。

1 春の災害

4月末からは強風やフェーン現象による高温・空気の乾燥等によって、畑作地帯の強風害や野火の発生が多くなる。5月下旬からはオホーツク海に冷たい高気圧が停滞し、肌寒い曇りや霧雨等の天気が続くことがある。また、高気圧に覆われた日の朝は、霜が降りやすく、6月に入ってから遅霜により農作物に被害が出ることもある。

2 夏の災害

オホーツク海の冷たい高気圧が8月になっても現れて、低温が続く年もある。また、この時期は雷が発生し局地的に強い雨が降ることも多く、路肩崩壊等の道路被害や崖崩れによる被害が発生することがある。

3 秋の災害

初秋の天気は変わりやすく、ときには台風の接近や前線の活動が活発となって暴風や大雨となることがある。近年では、住家の浸水や、農業・水産被害、倒木、停電等の大きな被害が発生している。8～9月の降水量は一年のうちで最も多くなっている。

4 冬の災害

12月に入ると西高東低の冬型の気圧配置となる日が増えて、近年では平成26年12月、猛烈に発達した猛吹雪により、国道、道道、市道の通行止めや大雪による立ち往生する車両、暴風雪による停電等が報告されている。

*網走地方気象台では、平成26年12月の猛吹雪を「数年に一度の猛吹雪になる恐れがあります。外出は控えてください。」というキーワードを用いた気象情報を発信。

第2節 過去の災害履歴

本市における過去の災害履歴については、資料編の経年履歴に示すとおりである。

[資料2-2]過去の災害の記録

第3章 指定河川浸水想定区域

市は、指定河川が大雨等による想定最大規模による浸水想定区域について示した地図を作成し、住民の生命及び財産を守る。

また、浸水想定区域を考慮し、指定避難所等の指定を行う。

- [資料 2-3] 網走川水系網走川洪水浸水想定区域（想定最大規模）
- [資料 2-4] 卯原内水系卯原内川洪水浸水想定区域（想定最大規模）
- [資料 2-5] 卯原内水系越歳川洪水浸水想定区域（想定最大規模）
- [資料 2-6] 網走川水系女満別川洪水浸水想定区域（想定最大規模）
- [資料 2-7] 網走川水系マストリ川洪水浸水想定区域（想定最大規模）
- [資料 2-8] 網走川水系サラカオーマキン川洪水浸水想定区域（想定最大規模）
- [資料 2-9] 車止内川水系車止内川洪水浸水想定区域（想定最大規模）
- [資料 2-10] 藻琴川水系藻琴川洪水浸水想定区域（想定最大規模）
- [資料 2-11] 藻琴川水系第二藻琴川洪水浸水想定区域（想定最大規模）
- [資料 2-12] 浦士別水系浦士別川洪水浸水想定区域（想定最大規模）